

民未天謳歌所歸咸無異望故是以天皇璽綬平奉天天日繼位定奉長久親王等王等臣等百官人天下公民衆聞給部宣止

〔扶桑略記光孝〕元慶八年二月四日乙未王卿群臣諸司百寮捧天子璽鏡劔等授一品式部卿親王

孝光東二條宮金吾亞將兵仗諸衛圍宮警固今宵宿侍天皇再三固辭讓於兵部卿親王本康然大相國基經等頻請不許仍五日丙申文武百官警蹕前驅奉迎新帝宣命使中納言在原朝臣行平阿保男即御鸞輿入移東宮遣從五位上守左近衛少將藤原朝臣高藤等運內裏所留鈴印匙鑰等置東宮南門內西掖

南門內西掖

〔百練抄後七〕大治二年九月十一日誕生同十一月十四日爲親王久壽二年七月廿四日踐祚年廿九

關白如元

〔台記〕久壽二年七月廿四日己巳三品雅仁親王白河受實位年廿九

〔神皇正統記後白河〕近衛は鳥羽の上皇鍾愛の御子なりしに早世しまし〜ぬ崇徳の御子重仁の親王つかせ給べかりしに本より御中心よからでやみぬ上皇おぼしめしわづらひけれど此御門白河たゝせたまふ立太子もなくてすぐに居させ給ふ

〔保元物語〕後白河院御即位の事

久壽二年の夏の頃より近衛院御なうまし〜しが中つひに七月廿三日にかくれさせ給ふ

略中新院崇徳此時をえてわが身こそ位にかへりつかずとも重仁親王は一定今度は位につかせ給はんと待うけさせおはしませり天下の諸人もみなかく存ける處に思の外に美福門院の

御はからひにて後白河院其時は四の宮とてうちこめられておはせしを御位につけ奉り給ひしかばたかきもいやしきも思の外の事におもひけり此四の宮も故待賢門院の御はらにて新院の御一腹なれば女院の御爲にはともに御まゝ子なれどもびふく門院の御心には重仁親王